

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 毎月勤労統計(2012年7月)

発表日2012年9月4日(火)

～名目賃金の減少が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL : 03-5221-4526

(単位: %)

		現金給与総額		常用雇用者数			総労働時間		
			所定内		一般	パート		所定内	所定外
11	7月	▲ 0.3	▲ 0.5	0.7	0.4	1.6	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 0.1
	8月	▲ 0.5	▲ 0.2	0.7	0.3	1.8	0.5	0.7	▲ 1.1
	9月	▲ 0.5	▲ 0.4	0.6	0.2	1.4	0.1	0.0	2.0
	10月	▲ 0.1	▲ 0.5	0.5	0.2	1.3	0.1	0.0	2.0
	11月	▲ 0.2	▲ 0.4	0.7	0.4	1.4	0.0	▲ 0.1	1.0
	12月	0.0	▲ 0.4	0.6	0.1	1.8	0.4	0.2	2.9
12	1月	▲ 1.2	▲ 0.3	0.5	▲ 0.1	2.2	0.0	0.0	0.6
	2月	0.1	0.0	0.6	0.3	1.1	3.3	3.5	0.6
	3月	0.9	0.4	0.6	0.0	1.7	1.5	1.4	4.3
	4月	0.2	▲ 0.2	0.7	▲ 0.1	2.5	0.4	0.0	5.3
	5月	▲ 1.1	0.0	0.9	0.2	2.6	3.2	3.0	5.6
	6月	▲ 0.4	▲ 0.6	0.9	▲ 0.1	3.2	▲ 0.5	▲ 0.7	1.2
	7月	▲ 1.2	0.0	0.6	0.3	1.4	0.1	0.0	▲ 0.8

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」

○現金給与総額は3ヶ月連続の減少

本日発表された7月の毎月勤労統計(速報)によれば、一人当たり現金給与総額は前年比▲1.2%と3ヶ月連続の減少となった。こうした減少は、夏季賞与を中心とした特別給与の減少によるものである。しかし、きまって支給する給与や所定内賃金でも前年比横ばいと伸び悩んでおり、基調部分も回復感に乏しい推移が続いている。賃金環境は依然として厳しい状態にあると判断されよう。

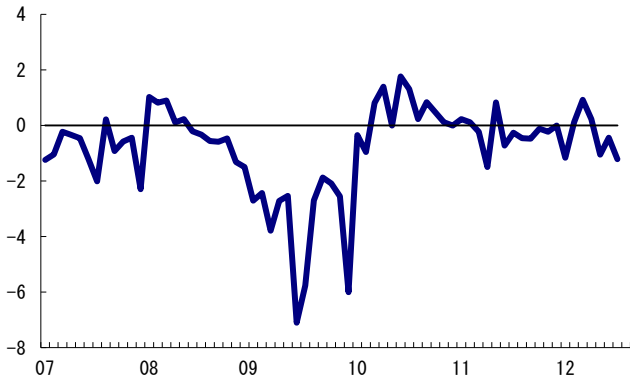
内訳をみると、特別給与は前年比▲4.3%と減少した。昨年の震災や円高などを背景とした企業業績の悪化を受け、2012年の夏季賞与が減少していることが影響したようだ。次に、賃金の大半を占める所定内給与は前年比横ばいと回復感に乏しい状態が続いたほか、所定外給与は同+0.3%と明確に伸びが鈍化(6月:同+5.1%)した。所定外給与については、7月の所定外労働時間が前年比▲0.8%と11ヶ月ぶりに減少と転じており、生産活動の減速に伴い製造業で残業時間の伸びが縮小したこと等が、所定外給与の下押し要因になったものと推察される。

○先行きも雇用・賃金環境の力強い回復は見込み難い

常用雇用者数は前年比+0.6%と増加幅が縮小、季節調整値でも前月比▲0.2%と減少した。7月労働力調査でも就業者数や雇用者数の伸び悩みが確認されており、雇用回復の足取りは依然として重い。

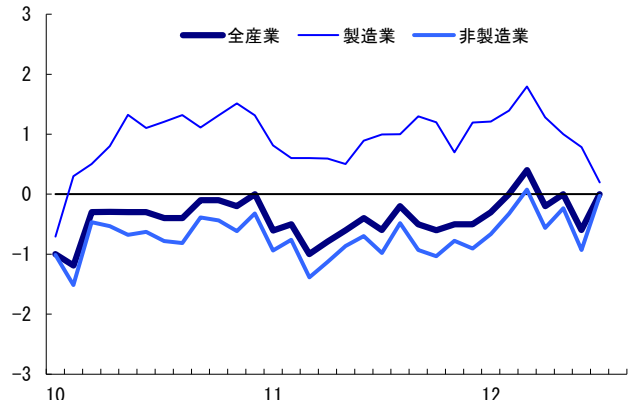
先行きの雇用や賃金に関しても、力強い回復は見込み難い状況にある。所定外給与に関しては、生産活動の減速が見込まれる中、残業代などの回復は鈍化するものとみられる。特別給与についても、ボーナスを夏冬同時に決定する企業が多いため、夏に続いて冬のボーナスも減少する公算が大きいだらう。基調部分である所定内賃金に関しても、生産や輸出が伸び悩むなど景気回復感が弱い中、企業は慎重姿勢をとる公算が大きい。今後も、雇用・賃金は回復力に乏しい展開となる可能性が高いとみられる。

現金給与総額（前年比、%）



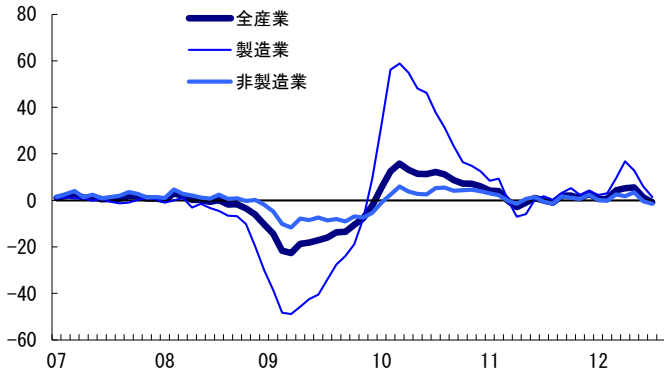
（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

所定内給与（前年比）



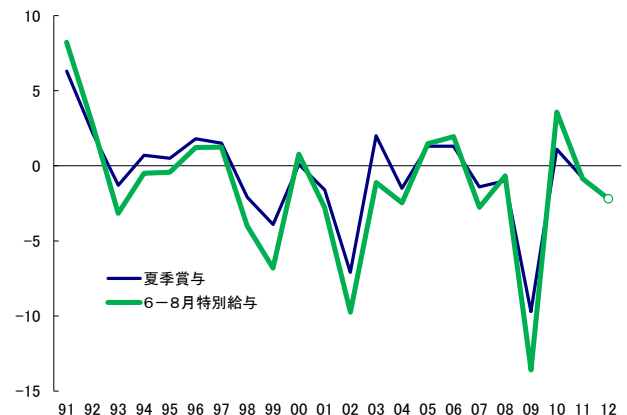
（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

所定外労働時間（前年比）



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

6-8月特別給与と夏季賞与（前年比、%）



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」より当社作成。

※直近2012年の特別給与（白抜き部分）は6-7月平均の前年比伸び率